資 源 環 境 経 済 学 特 別 演 習 Ⅰ　　議 事 録

２０１６ 年 度　 第 ５ 回

報告題名(title)：都市の子どものための自由な遊び場づくり －市民農園の遊ぶ場所としての可能性－	
報告者(name)　　チリゲル	日時　　9 月 15 日　午後 3 時～
所属分野(labo)　　環境経済学	場所　　第 3 講義室
座長　　西田　陽平	議事録担当者　　石塚　修敬

出席者

井元、小山田、米澤、高篠、伊藤、水木、西田、千葉、佐藤、石塚、チリゲル、ソリゴガ、吉田、趙、木暮、辻、ゲゲンタナ

報告要旨(Abstract)

本研究では、子どもと市民農園に着目し、市民農園で子どもが遊んでいるかを観察する。次に、その遊び場としての状況を検証する。最後に、市民農園に子どもの遊び場の機能があることで、利用者層拡大の可能性を検討する。背景として、近年の子どもの遊び場から自然との触れ合いが減少していること、大人の関わりが大きいことが挙げられる。市民農園では大人（親）は農作業をしているため、子どもの遊びに対して通常よりも関わりが低くなることが予想される。2つ目の背景として、市民農園の利用者に占める高齢者の割合の高さが挙げられる。若い世代が市民農園を利用しやすくなるためには、子どもの遊ぶ場としての機能があることが重要であると考えられる。調査対象は仙台市で開設されている29件の市民農園であり、これまで行った電話調査および訪問調査の結果を報告する。

質疑・応答(Q & A)

敬称略

Q **辻**:若い人のどういう市民農園の使い方を想定しているのか.

A **チリゲル**:若い世代が利用していない理由の1つは, レクリエーション農園のように栽培指導を行わない農園で農作業の勝手がわからず利用を途中でやめてしまうから, もう1つは, レクリエーション農園においては付加施設が少なく, 子供を連れてくることに対する不便が存在する. この2点の解決が必要と考えている.

Q **辻**:若年層というのは具体的に誰を指しているのか.

A **チリゲル**:子連れの親である.

Q **石塚**:市民農園の新たな活用法を見出すということだが, まず本報告において市民農園に関する制度的な整理が不足していると思う. 加えて, 報告において「子供の遊び」や「自由」という語がキーワードになっているようだが, これらの語句にとらわれすぎているようで筋がよくわからないので, 農地の多面的機能論の側面からアプローチしてみるのも手ではないか. 以上はコメントで, 以後質問に入るが, 市民農園に連れてこられた子供がそこで遊ぶというのは利用者間のトラブルに発展し得ないのか, これまでの調査でそういう話は出ていないのか.

A **チリゲル**:連れてこられている子供がそもそも少ないこともあり, 現状そのようなトラブルの存在は明らかになっていない(未確認事項).

Q **西田**:現地調査を行ったのは平日なのか休日なのか. 調査実施日が平日であれば, 仕事等で若い親子連れが訪れず, 高齢の利用者ばかりが目につくのも当然ではないか.

A **チリゲル**:レクリエーション農園は利用者の利用頻度はやや低く, 中には途中で耕作をやめた方もいた. 栽培指導型農園の利用者はほぼ毎週通っており, 脱落者は少ない.

Q **西田**:スライド P17,18 の子連れ利用者の有無は, その日たまたま居た人数によるものなのか.

A **チリゲル**:農園管理者への電話ヒアリングで確認した利用者数である. 現地調査を行った際の結果は P15 にある.

Q **井元**:その現地調査は平日にやったのか, 休日にやったのか.

A **チリゲル**:休日に実施した.

Q **西田**:では, 休日の市民農園にいた親子連れの, その子供がどのように遊んでいたかを観察したということか.

A **チリゲル**:そうだ, 4-5 時間ほど現地で観察した.

Q **西田**:スライド P13 の分類について, 「関わり」とある縦軸はどのような指標によるものなのか.

A **チリゲル**:数字的なものではなく, 強さを示している.

Q **西田**:公園で遊ぶことは親との関わりが強いということか.

A **チリゲル**:そうだ. 公園で遊ばせている間は保護者の監視の目があるため.

Q **西田**:そういう意味であれば, 保護者と一緒に市民農園に来ているのなら監視の目があると考えられる.

A **チリゲル**:親は農作業に夢中になるため監視の目が薄れる.

Q **米澤**:自身も幼い子がいるためトラブルを危惧してしまい農園を借りることに少し抵抗がある. 報告では個人利用者が対象にされているが, 保育所が団体として農園を利用しているケースもあって, 農作業体験をさせている. 保育所や幼稚園を通した調査も可能ではないか.

A **チリゲル**:検討してみる.

Q **木暮**:実際に子供の遊びが観測されたとあるが, どういった内容であったのか. また, 親の監視が薄れたという点については, 親に対してその自覚の有無を確認したのか

A チリゲル：私の目視によって確認した．
Q 木暮：作業中なのだからそう見えるのは当然．当事者の意識の有無の確認が必要ではないか．
A チリゲル：そのことについては親に聞いた．子供の位置に合わせて作業内容が変わっている．
Q 木暮：結局，“親に子供を意識しているか”という質問をしたのか．
A チリゲル：した．

Q 水木：子連れの利用者は，農園にはどういう交通手段で来ているのか．
A チリゲル：自動車である．
Q 水木：遠くから通っているのか．
A チリゲル：農具を運ぶためである．
Q 水木：自動車で来ているのであれば，大人の介入があり，「大人からの自由」はその段階で成立し得ないのではないか．歩いていける範囲に公園があって，そこに子供たちどうしで遊びに行く方が「大人からの自由」と考えられるのではないか．
A チリゲル：近いところに農園があることが最も望ましいと考えている．親の介入に関しては，親に直接聞くより第三者の目線で観察し，判断したほうがいいと考えている．
A 井元：補足するが，本研究においては，“農園で遊んでいる時点において保護者からの遊びに対する関わりは薄くなっているのではないか”という仮説を検証している．

Q 伊藤：この研究は，いかにして市民農園を作り変えると，今まで利用できなかった人たちがより沢山使えるようになる，ということを明らかにしたいのか．
A チリゲル：高齢者の利用が多く，子連れの方の利用の割合が非常に少ない．農業初心者でも栽培が上手く出来る，栽培指導型の拡大が望ましいと考えている．
Q 伊藤：市民農園の中で子供をいかに遊ばせるかという本研究の設定によって，農園内で子供が何に興味を持つかということは明らかになるだろうが，子供と市民農園を組み合せる必要は無いだろう．高齢者ばかりが利用する状況を問題視しているが，農作業で体を動かすことによる健康増進は医療費削減にも繋がっている．つまり，市民農園を若い人たちが利用しなければならない理由は何もない．にも関わらず，遊び場としての可能性を付加しようとしているため，無理のある展開になっているのではないか．
A チリゲル：自然度も高く，大人の関わりが薄い昔ながらの遊び場に近い場として，市民農園を新たな遊び場として大人に提案したい．
Q 伊藤：都市の中で市民農園を子供たちの遊び場として開放できるか，ということか．
A チリゲル：そうだ．新たな選択肢を作りたい．
Q 伊藤：なぜ“自由”というキーワードを用いて観察しなければならないのか．別の遊び場と比べてどういう面で優れていて，どれだけ子供たちの需要があるのか，それを明らかにするということか．
A チリゲル：その点も明らかにしたい．
Q 伊藤：であれば，単なる遊び場の選択肢の一つにすぎない．以後，熟考を求む．

Q 米澤：遊びではなく，食育に繋げた方がわかりやすくなるのではないか．
A チリゲル：農園で遊ばせるという概念を，新たに検討したい．
Q 米澤：遊ばせることによる問題もきちんと検討してはどうだろうか．
A チリゲル：以後検討する．